

## 【熊本国税局長賞】

### 私の白い帽子

大分市立明野中学校

三年 藤原 真子

「行ってきます。」そう言って、帽子を被って家を出る。三年間、毎日のように被っている白い帽子は私の相棒だ。

この帽子は、コロナで卒業式や入学式が短縮・中止になった新入生へ「お祝い」として県から贈られた商品券で買ったものだ。金額は一人一万円。うちは双子だから二万円も来る。

商品券を受け取って、学校から帰る車の中、私と妹は何を買うかで盛り上がっていた。「ねえ、せつかく二万円もあるんだから、好きな物買っていい？」

「自分の趣味に使っちゃダメよ。出所は税金なのよ。納税した人たちからのお祝いなんだからね。無駄づかいなんてダメ。」

と答えた。商品券はよく考えてから使おうということになり、私は「親は真面目だなあ」と思いつつも、初めて税金について考えた。税金がお祝いに使われているなんて知らなかった。

私が思いつくのは、消費税くらいだ。買い物するとき、税抜き価格を見てレジに行き、そこで税込み価格を初めて知って、改めて税金の高さを感じることも何度もある。私の納めた税金がどう使われているかは知らないけれど、少ないおこづかいから払っているのだから、みんなの役に立つ使い方をしてほしい。

もし、税金が誰かの楽しみのためだけに使われていたら、今回の商品券のように、もらえなかった人たちはどう思うだろう。不公平だ、ずるいと感ずるかもしれない。税金は、個人のためだけにあるのではなく、みんなの暮らしを良くしたり、困っている人を助けたりするために使うものなんだ。だから、不公平感がないように、そして、納税する人が納得するような使い方でなければダメなんだ、と思うようになった。

次の日、そのことを母に話した。家族で話し合い、中学校生活で役立つものにしようということになり、参考書を買った。参考書は、臨時休校中にとっても役立つし、受験生になった今でも使っている。金額が少し残ったので、通学ときに被る帽子を買うことにした。帽子売り場にはたくさん種類があつて迷ったが、制服に似合いそうな白色を選んだ。帽子を被って登下校していると、先生から、

「白い帽子は爽やかでいいね。」  
とよく話しかけられて、少し嬉しくなる。

あの時、商品券で好きな物を買っていたら、税金について考えることはなかっただろう。この帽子は、三年後に成人する私が社会のことを考えるきっかけになったのかもしれない。今年の夏も暑くなりそうだ。私の白い帽子もきつと大活躍してくれるだろう。これから私の相棒として、大切に使っていきたい。